

平成30年11月22日

「この人に聞く」成熟社会と建築

藤岡洋保（ふじおか ひろやす）氏



プロフィール 1949年広島県生まれ。

東京工業大学名誉教授／工学博士。

1973年東京工業大学工学部建築学科卒業，

1975年同大学院修士課程建築学専攻修了，

1979年同博士課程建築学専攻修了。明治大学工学部建築学科助手

などを経て，1996年東京工業大学工学部建築学科教授，2000年同大学院理工学研究科建築学専攻教授，2015年同大学定年退職。専門分野は建築史，

主たる研究テーマは日本近代のデザイン，建築思想，建築技術，保存論など。

2011年日本建築学会賞（論文），2013年「建築と社会」賞を受賞。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

『合目的性を越えた意匠の世界—谷口吉郎自邸』（新建築社，1997）『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求』（中央公論美術出版，2009），『明治神宮の建築—日本近代を象徴する空間』（鹿島出版会，2018）など著作多数。

東京工業大学名誉教授である藤岡洋保氏に，明治以降の公共建築の歩みについて伺った。

■公共建築の建設

公共建築は，国の庁舎から，都道府県庁舎，郵便局，学校，病院，博物館・美術館，公会堂，公民館，警察署，消防署から灯台に至るまで，多種多様ですが，ここでは，官庁や地方自治体の建築を中心に，その背景や設計者の意図に言及しながら，近代の公共建築の歴史をふり返ります。

明治新政府にとっての外交上の最重要課題は不平等条約の改正で，西洋に比肩し得る国であることを示すために近代化が急がれ，富国強兵が重要となりました。新たな行政システムの間として官庁建築がつくられ始めましたが，多くは和洋折衷の建築で，本格的なものはお雇い外国人が担当しました。参勤交代制の関係で，江戸には武家地が多く，約7割もあり，そこには現代的な意味での所有権がなかったので，合法的に政府が召し上げることができました（「土地」：「あげち」または「じょうち」と呼ばれます）。それでんところが官庁建築用地を得るのを容易にしました。東京奠都はその点で好都合で，皇居周辺の旧武家屋敷を転用したり，旧武家地に官庁

が建てられました。そうするためには太政官の許可を得る必要がありましたが、それによらずに占有した例があったようです。その一方で、官庁を一カ所にまとめるという考えは明治初期からあり、1873年の工部省案では現在の皇居東御苑を候補地に想定していました。

1886年に始まった官庁集中計画で、外務卿・井上馨がベルリンのエンデ&ベックマン事務所につくらせた案が実現の見込みがほとんどないほど壮大なものだったことが、政府の条約改正への意気込みを象徴しています。この頃には、空き地だった日比谷練兵場が候補地で（事実上、それ以外には適地はありませんでした）、それが霞が関に官庁街が形成される基になったとも言えます。

明治20年前後に、内閣制度の創設、大日本帝国憲法発布、帝国議会召集があり、本格的な官庁建築をつくる基盤が整いました。中でも最大のプロジェクトが議事堂の建設でした。世界的にも、国会議事堂は国威発揚を意識して19世紀に建てられるようになった新しいビルディングタイプです。日本でも、国産品だけでつくることを目標に、1920年に着工し、1936年に竣工しました。その際に全国の石の産地と埋蔵量を調査し、本にまとめられたのは技術史上評価されます。

関東大震災復興事業を推進するため1926年に大蔵省に営繕管財局がつくられ、官庁建築を一括して担当することになり、首相官邸や霞が関の官庁街を建設しました。独自の営繕組織を維持した省もあり、モダニズムをリードした逓信省や、最新技術を積極的に適用した海軍省などがその例です。

地方自治体でも、東京市の関東大震災復興事業が注目されます。罹災した市立小学校117校すべてを、蒸気暖房、水洗便所、シャワー室を標準装備した鉄筋コンクリート造で建設しましたし、その後も罹災を免れた木造校舎の鉄筋コンクリート造による建替えを推進し、それらは当時の日本の新建築を代表するものになりました。そして、世界最大規模の中央卸売市場築地本場も建設しています。「復旧」ひでじろうではなく「復興」を提唱した永田秀次郎市長の強いリーダーとしかたーシップと、技術と人材の供給でそれを支えた佐野利器建築局長（東京帝大教授を兼務）が事業促進の原動力でした。

■戦後の公共建築

太平洋戦争後には、営繕管財局が戦災復興院を経て建設省に代わり、官庁営繕を担いました。合同庁舎化を前提に、霞が関地区の整備計画を立案し、都市計画の調整を東京都と図りながら、また1963年の建築基準法改正による高さ制限撤廃や容積率制導入などを踏まえて、整備を続けてきました。

戦後には、国会図書館や京都国際会議場、国立劇場、最高裁判所など、記念的な建物の設計者をコンペで決めるなど、官庁建築の実施を「民」に委ねるやり方が増えました。戦前では「官」に最高の知やノウハウがあり、「官」が「民」を指導する体制だったのですが、戦後には「民」が育ち、その厚みもできたので、「官」が仕組みや枠組みを用意し、実施（設計や建設）には「民」の力を借りるようになったのです。それは地方自治体でも同様で、「建築知事」と言われた首長が有名建築家に特命で依頼した例もあり、それらは今日でも名建築として評価されていますが、設計者選定をコンペに頼る例が増えてきています。

その中には、見学できる清掃工場（広島環境局中工場など）や消防署（広島西消防署）、多機能を包含した文化施設（せんだいメディアテークなど）、分譲マンションを合築した区庁舎（豊島区庁舎）など、従来の公共建築のあり方からの脱皮を目指すものが少なからず見受けられます。

また、更地に新築ではなく、既存建物を庁舎に転用した例もあります。例えば、現在の目黒区庁舎は、かつて千代田生命保険の本社ビル（村野藤吾設計で1966年竣工）でしたが、同社倒産後に目黒区が買収した上で改修しました。

■まとめ— 公共建築の今とこれから

公共施設の所有者は国であり、地方自治体で、行政のための施設です。かつては国威発揚の手段で、国民や市民を治め、啓蒙するための施設でもありましたが、戦後には「民主社会」に対応すべく、実務重視で、より開かれた施設であることが求められるようになりました。

「公共建築」のあり方も時代とともに変わってきました。戦前の官庁建築は西洋に比肩するものであることを、国の威信を表現することを意識してつくられましたが、戦後は「民主社会」に対応するために、市民に開かれた施設を標榜するようになり、一つの機能（博物館・美術館や図書館、駅など）に特化したものから、多機能・多目的で、気軽に立ち寄れる施設へと変わってきています。近年は、それに加えて、サステナビリティ、更地に新築よりも「維持」や「長寿命化」、耐震性能強化、民間からの資金・運営ノウハウの提供が重要なテーマになっています。少子高齢化や過疎化、IT化、財政難などのために、「お上から与えられるものから、皆で維持し支えるものへ」と変わりつつあるわけです。社会の変化に対応する新たな「公共」概念の構築や、それに対応する公共建築のあり方が求められています。それを日本社会全体の問題として考えるべき時が来ているのです。